

過ごし方のヒント

2021. 11. 8

子どもを変えようとするより、自分が変わる方が効果は絶大…

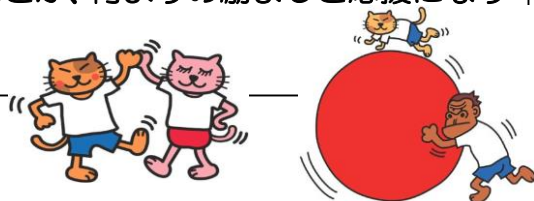
1 運動会の練習をしています

お待たせしている運動会、各学年で練習がそろそろ本格的に始まっています。

コロナ禍の間、どうしても運動不足になりがちだった子どもたち。涼しい気候になったとはいえ、まだまだ、体力が例年通りとはいえないかもしれません。

お家で、「ゆっくり食べる」「しっかりと寝る」時間がとれますよう、御配慮をお願いします。

そのことが、何よりの励ましと応援になります。



— こどもと向き合う・こどもと一緒に育つ —

「子どもを育てる」「教育をする」私たち大人は、こどもに「こう育ってほしい」「こんな力をつけてほしい」と、願いを持ちます。そして、その願いを実現するために、「できるだけ多くの経験を（習い事など）させよう」「毎日、九九の練習をさせよう」と、それを実行していきます。全て、『子どものため』という一心で…。

その想いは、とても尊いものです。しかし、それが、今、この子にとって無理をしていないかは、よく考えることが大切です。大人は子どもを導く存在ですが、子どもは大人の願いを実現するために存在しているわけではありません。多くの経験をさせるためにゆっくり好きなことをする時間を無くしていないか、ご飯を食べる時間を削って九九の練習をさせていないか、少し立ち止まって考える時間も大切ですね。そのバランスは本当に難しいものです。ぶつかるともあって当たり前です。遠慮のない家族だからこそ、対立した時は、大人が導き手として、譲ったり、間を取ったり、双方が納得する方法を提案しましょう。

もちろん教師も、自分の言葉を子どもがどう捉えるか、よく考えながら教育活動にあたっていきます。

2 「配慮」と「甘やかし」は別物

子どもの思い通りにするのではなく、大人としての意見をきちんと伝えようとする事です。「お父さんはこう思う」「お母さんはこう思う」「あなたは、どう考えるの?」と対話することです。

一人前に扱ってもらえた子どもは、きっと、予想より大人の対応をします。そこでまた、「体だけではなくて、心も大きくなったね、成長したね。」と認めてあげることができます。

